

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部 長	森山 あづさ
非常勤医師	倉田 宝保

—概要—

2007年6月1日から呼吸器科から肺腫瘍内科と診療科名を変更し、肺癌をはじめとする呼吸器(胸腔内)腫瘍疾患を専門に診療を続けてきた。

2017年度は化学療法室での外来化学療法を中心に、肺がんに加えて乳がん、胆管がん、膵がんなどの他臓器腫瘍の化学療法も外来化学療法室で施行している。

2010年4月からは近畿大学医学部から、2012年4月からは関西医大枚方病院の呼吸器腫瘍科教授・倉田宝保医師が非常勤医師として隔週木曜日午前の外来を担当している。

また、2012年4月からは呼吸器内科の外来を近畿大学医学部から東本医師と久米医師、大阪大学医学部からは平田医師が寄付講座から非常勤医師として担当していただき、今までの腫瘍中心の診療に加えて、肺気腫、呼吸器感染症、アレルギー疾患、間質肺炎等幅広い呼吸器内科診療が行えるようになった。

常勤医師の気管支鏡指導医取得に加え、また近畿大学付属病院呼吸器科から指導頂き、呼吸器外科、呼吸器科非常勤医師とともに気管支鏡を施行。引き続き呼吸器内視鏡関連施設の維持を継続していく。

がん治療と並行して今年度から緩和チームに参加し、麻酔科、薬剤科、栄養管理科、リハビリテーション科など多職種とのカンファレンス、および回診を開始した。1999年にがん対策基本計画が策定され、2017年度の3期目の基本計画ではがん対策の方針として“予防”“医療の充実”“がんとの共生”を3本の柱として掲げている。いまや国民病となったがんについて正しい知識を持って、患者に適切な医療を受ける判断をしてもらうよう努めていく。

2018年1月からは毎週月曜日、午後から緩和外来を開始した。

2017年4月から検査検体管理者となり検体検査の精度管理業務を行っている。院内の内部精度管理を上げる目的で多職種を対象とした研修会を実施した。今後も精度確保および院内への教育のために研修会を定期的に行っていく予定である。

—来年度への抱負—

胸部2次検診の強化、肺癌検診での地域検診受診率を高め、早期発見につとめていく。

ここ数年で進行期肺がんに対する化学療法は急速に進歩し、肺がんの重要なドライバー遺伝子であるEGFR,ALK,ROS1に加えてBRAFの解析も進み、個々の患者に効果の高い治療薬を投与することが求められている。2013年には日本でも肺がん遺伝子スクリーニングプロジェクト(LC-SCRUM-Japan)が開始され、遺伝子パネルを用いた次世代シーケンサーを用いて迅速に大量の遺伝子解析を行うことが可能となってきた。

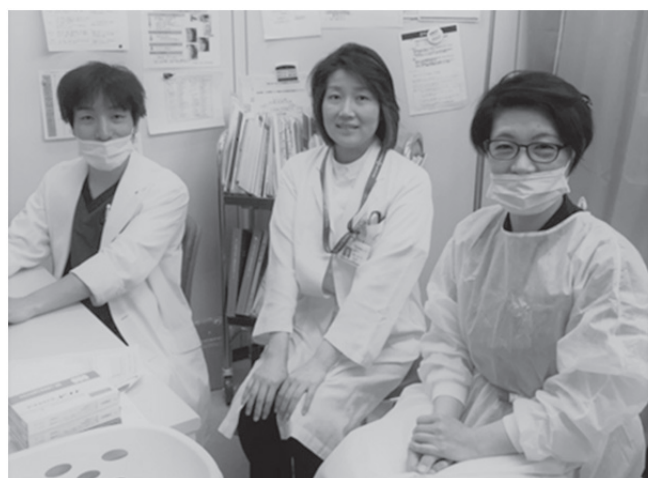
また上記遺伝子異常に対する分子標的薬に加え、免疫調整薬と従来からある細胞障害性抗がん剤との併用の臨床試験結果も出ており、検査科および化学療法室での新しい検査手段や結果を理解し、地域差のない医療を提供できるよう臨床へと結び付けていくことを目標とする。

がん進行期および化学療法中の症状緩和中心とした緩和診療に重点を置き、がん拠点病院として積極的がん治療と並行して緩和ケアセンターを成立させるべく、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、そして将来的緩和ケア病棟を設立することを目標とする。それには地域連携することが重要課題である。

<施設認定、関連施設>

日本呼吸器関連施設

日本呼吸器内視鏡関連施設(気管支鏡)



Eブロック化学療法室にて